

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	双方向変換の深化による自律分散ビッグデータの相互運用基盤に関する研究
研究代表者	胡 振江 (国立情報学研究所・アーキテクチャ科学研究系・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究はデータベース意味論的な透過性を解析し、異なるスキーマを持つデータベース間において双方向に参照や更新を行えるようにするための運用基盤の構築を目指すものである。この問題はデータベースの初期から存在する古典的課題であり、ビッグデータの相互運用が望まれる現代においても重要である。</p> <p>実績のある応募者らによるオールジャパン的な取り組みであり、実質的な成果が上げられると期待できる。やや総花的な感があり先鋭的な研究ポイントが見えにくく、実際にビッグデータを用いた検証を行えるのかなどの懸念もあったが、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>